

あ・ん・て・な

## 原初—無のはじまり以前に

11

オラ・テレ・クク

2、3世紀にわたっていまにも爆発しそうだったものが、1859年11月ついに『種の起源』の出版によって噴出した。この本は「世界は6日にして創られたのではなく、そのはじまりも紀元前4004年ではない。人間は今の姿で創られたわけではなく、何百万年もかかって下等動物から進化してきたものだ」と、それまで避けてきた問題を提起し、数々の論争を巻き起こした。

万物は、永遠でも絶対でもない。知覚の及ばないところで、生滅はたえず繰り返され、何百万年という歳月が流れ、大きな違いが生まれたのだった。

すべからく「存在」は、かたときもとどまることを知らず変化しているものである。「状態」というよりは推移の「過程」であり、「ある」というよりは「なる」といったもので、かたちを変えながらいつか朽ちて行くものだ。

存在をかたちづけているものには、時間のように目で見えないものもある。形あるものも時がたてば消滅していくように、何ものも時間の制約は免れず、不可分のものだ。

「無」の存在もある。予見や予期や、脳裏をよぎる思いに苦悩するといった観念の世界がこれにあたるのだが、こういったものも、潜在意識下でわたしたちの存在を左右している。

このように有形無形の存在はすべて、そのかたちを変えながら生滅を繰り返しているのだが、そこにははじまりも終わりもない、虚空のなかを漂っているにすぎない。「存在」というものは、それを確認する、いわばどこにも運ばれずに終わる航海の旅路なのだと思う。(建築家)

# In The Beginning-



■Ola-Dele Kuku=ナイジェリア生まれ、ベルギー在住の建築家。現在「ラボロトウム」(ベルギー)に所属。「インテリア:ネクストウェーブ」のテーマで公募された95年の名古屋国際デザインコンペティションで、グランプリ内閣総理大臣賞を受賞。受賞作の可動式書庫は、「人をひきつける圧倒的な魅力を持つ。理屈を超えてモノそのものの持つ力、意味、魅力を明確に提示しており、またその動きが周囲に描き出す影の多様な表情によって、モノと空間とをたくみに融合させている点も、今後のインテリアのひとつの方向性を示すものであろう」と、高く評価された。